

# 常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【9・10 月度の御金言】 宝山に來たり登りて瓦石を採取し、梅檀に歩入りて伊蘭を懷き取らば恨悔有らん。故に万人の謗りを捨てて猥りに取捨を加ふ。我が門弟委細に之れを尋討せよ。

『法華取要抄』（全集 331 頁）

## 法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991 年 2 月 13 日 掲揚

☆ 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。

人間は、権威、権力、金力、暴力、噂、多人数、利益、身内、友人等々に弱く、そういう力に影響を受け、なびいてしまうものであります。自分で自分の考えを絶対正しいと信じている人でも、これらの要素に流されているにもかかわらず、流されていないと強がり、あたかも自分の考えが何ものにも左右されないで確立している様に考えているのであります。

つまり、人間は柳の枝の様に、風に吹かれて一時として静止する事が出来ない様に、色々な要素、考えに影響を受け、漂い、自分の考えだと錯覚しているのであります。ここで大事な事は、柳の様に、どれだけ揺れていても、自分の根を定まった所に動かず張って、迷った時に戻る所を持っているか、糸の切れた凧の様に、戻る所を持たず、権威、権力、金力、暴力、噂、多人数、利益、身内、友人等々の言葉になびいてなびいて迷っているのに迷っていると気付かないで、迷い続けて生きて行くのかの違いなのであります。

人間は一人では生きて行けないのですから、色々な人を見て学びます。ですから、どこまでが他人の考えなのか、どこからが自分の考えなのか識別出来ないのであります。

つまり、自分の十界互具の生命と他人の十界互具の生命と社会の十界互具の生命と溶け込み混じり繋がっているから境が無いのであります。

私達凡夫は、糸の切れた凧では無く、この柳の様に、どんなに漂いなびき迷い揺れても、全ての生命に仏の生命が具わっていて、全ての生命は、南無妙法蓮華經の法によって仏に成る事が出来るという動かない南無妙法蓮華經の根っこを持ち、迷ったらそこに戻り、迷ったらそこに戻るを繰り返す乍ら、最後は自分自身が法華經の行者として自らの信心修行で成仏しなければいけないのであります。

どんなに苦しい事、悲しい事、辛い事、病気、事故、理不尽不運な運命、差別、いじめに遭遇して、心が漂いなびき迷い揺れた時にこそ、糸の切れた凧となり、信心していたのにこうなると不信の恨みを持つのではなく、柳の様に、揺れながらも、南無妙法蓮華經の根っこを思い出し見失わないで、この時の為に信仰して来た、漂い迷う心を南無妙法蓮華經の法に止める事が出来たと思える信仰と生き方をして下さい。